

# 現職司書教諭との出会いが司書教諭課程の1年生へ与えた影響

庄 ゆかり\*

The Impact of Meeting a Teacher Librarian upon the First Year Students  
in a Teacher Librarian Course

Yukari SHO\*

## 1 はじめに

学校図書館の設置は、1953年制定の学校図書館法で義務づけられている。制定当時、「当面、置かないことができる」とされていた司書教諭も、平成9年の学校図書館法改正により平成15年度以降12学級以上のすべての学校で発令されることとなった<sup>1)</sup>。それに伴い、学校図書館司書教諭講習規定による養成課程を構成する科目は、実務を中心とする7科目8単位から学校経営や学習活動を中心とした5科目10単位となった<sup>2)</sup>。

5科目のうちの1つが「学校図書館メディアの構成」である。文科省通知によると、この科目のねらいは「学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を図る」こととされており、司書教諭講習5科目の中で唯一、図書館実務能力の育成を目指す科目である。よって、その内容は、学校図書館で収集するメディアの種類とその選択、分類・目録の実際、学習環境の整備と各種メディアの配置という、学校図書館における実務の学習が中心となっている。

平成26年の学校図書館法改正で学校図書館職員つまり図書館実務に従事する職員として学校司書配置が定められた<sup>3)</sup>が、全校配置実現には

時間がかかると予想される。司書教諭の学校図書館実務の理解と実施能力は、少なくとも当分の間、学校図書館の状況に大きな影響を与えると考えられる。

学校図書館が現代の学校教育に必要な機能であるために、資格として定められ配置が義務付けられている司書教諭ではあるが、有資格者であっても図書館実務能力および学校図書館経営に対する意欲は必ずしも高くないという状況が学校現場にはある。学校図書館に限らず小規模な組織の管理運営に際しては実務知識が必要であるが、教職を目指す学生にとって、学校図書館実務の詳細は児童生徒や教育活動と直接的に結びつかないため、この科目の学習内容について学生の学習意欲は必ずしも高くない。

しかし、この科目の内容は他の司書教諭科目や教職科目とは重複しないことを考え合わせると、学生が実務について学ぶことの意義を理解し、高い意欲をもって学習に取り組むことは、学校図書館活動発展のために重要であると考えられる。

広島文教女子大学では、「学校図書館メディアの構成」は司書教諭課程最初の科目であるので、15回授業の前半は概論として学校図書館の意義や司書教諭の役割などを講義したのち、実務能力の育成に取り組む。だが、学校教育における司書教諭という役割について具体的イメー

\* 本学准教授

ジを持たない学生は、試験のため、資格のための受け身な学習になりがちである。

平成27年度「学校図書館メディアの構成」では、学校教育の中で学校図書館と司書教諭がもつ機能・役割のイメージの明確化をはかるため、現職の司書教諭を招き、業務の実際についての講演を聞く機会を設けた。本研究は、授業における現職司書教諭との出会いが司書教諭課程の1年生に与えた影響を分析し、その影響が学習意欲向上に与える効果について考察する。

## 2 平成27年度「学校図書館メディアの構成」

平成27年度広島文教女子大学司書教諭科目「学校図書館メディアの構成」は、前半が講義で概要を学び、後半は実務演習に取り組むという構成であった。概要は以下のとおりである。司書教諭の講演は第10回に行った。

- 1 学校図書館メディアの意義と役割（講義）
- 2 学校図書館メディアの種類と特性（講義）
- 3 学校図書館メディアの活用（講義）
- 4 学校図書館業務（講義）
- 5 学校図書館メディアの選択と収集（講義）
- 6 学校図書館メディアの組織化（講義）
- 7 試験
- 8 学校図書館メディアの分類（演習）①
- 9 学校図書館メディアの分類（演習）②
- 10 学校図書館の業務と活動（司書教諭の講演）
- 11 学校図書館メディアの目録（演習）①
- 12 学校図書館メディアの目録（演習）②
- 13 学校図書館メディアの目録（演習）③
- 14 学校図書館メディアの目録（演習）④
- 15 分類目録総合演習

参加した司書教諭は国語科の教師であるが、

現在は広島文教女子大学附属高校の司書教諭専任として勤務している。当日は、選書を中心に業務の実際について約60分の講演後（図1、2）、学校図書室活動の主軸でもあるNIE（Newspaper in Education 新聞を教材とした学習活動）の課題に取り組んだ。

## 3 方法

この授業の履修学生は46名（2年次2名、1年次44名）であり、講演当日は全員が出席した。



図1 授業の様子

### 図書室運営の方向性①

#### 「学習センター」の機能を充実させる

本校の8割の生徒が大学進学をし、その多くがAO・推薦入試を受験する。

- ・小論文課題図書コーナー、個別指導
- ・クラブ活動と両立させる自学自習の場

### 図書室運営の方向性②

#### 「大学入試改革」に対応した場にする

- (1) 高等学校基礎学力テスト  
...H35から入試・就職に活用
- (2) 大学入学希望者学力評価テスト  
...H32から導入
- (3) 大学の個別学力試験  
...教科融合型の出題、小論文メイン？

図2 講演スライド（一部）

講演後、45名の学生がiPadで感想を入力し提出した。本研究で分析したのは、提出された感想である。感想の文章長は最短101字、最長1,173字、平均361.8字であった。

まず、テキストマイニングのためのプログラム「KH Coder<sup>4)</sup>」を使用し、感想に頻出する語の抽出とグループ分けを行った。次に、頻出語を含む文章を取り出し、グループごとに解釈を行った。最後に、学生が司書教諭との出会いからどのような影響を受けたのか、解釈をもとに考察した。

### 3.1 KH Coder によるテキストマイニング

本研究では、テキストマイニングのためのプログラム「KH Coder<sup>4)</sup>」を使用した。

テキストマイニングとは、テキストを定量的に解析するための手法である。テキストの質的分析は研究者個人の判断や解釈に依存するため、客観的な比較が難しく再現可能性も低い。量的方法を用いた分析を行えば客観性が向上する。テキストマイニングは、テキストデータを量的に扱える形に変換し分析する方法のひとつであり、文章中の単語を言語データとして分類・集計・分析する。

テキストマイニングでは、まず、コンピュータを用いてテキストを単語に分解する。テキストを単語に分解し、活用のある語は原型に戻したのち、主として品詞別に分類する作業を形態素解析という。

日本語の文章は単語の区切りが明らかなではない一連の文字列でなっている。その文字列を単語に分解するためには、単語や活用・連結パターンを登録した辞書が必要となる。この辞書には、それぞれの単語の品詞も登録されており、形態素解析を行うソフトウェアは、入力された文字列をこの辞書に従い分解し、品詞によ

り分類する。

本研究で使ったプログラム KH Coder には、形態素解析ソフトウェアが組み込まれ、形態素解析の結果をもとに各種の多変量解析を行う機能も備わっている。分析者が分析方法と条件（上位何位の言葉までを分析対象とするか等）を指定すれば、計算結果として図表が出力される。

### 3.2 分析方法

本研究で分析対象とする学生の感想は、LMS（ラーニングマネジメントシステム）上に設定した学習コースのレポート提出機能を通して入力・提出されたものである。このレポートを Microsoft Excel フォーマットで出力し、KH Coder へ取り込んだ。その際、誤字・脱字の訂正は行っていない。

KH Coder による形態素解析では、組み込まれた辞書に従って、語句が分割され、動詞・形容動詞など活用のある語については基本形にする作業が行われる。その際、初期設定のままでは、重要な複合語が分割されてしまうことがある。また、研究上、まとめることが必要な同意語や分析対象から除外したい語などについては、手動で設定が必要である。

本研究でも、形態素解析の結果と原文を突き合わせ、分析に必要な設定追加等を行った。以下は、追加した設定の例である。

- ・「司書」「教諭」の2語を「司書教諭」の1語へ
- ・「岡本」「先生」の2語を「岡本先生」の1語へ
- ・「思う」「考える」など、文末に頻出するが、本研究の分析の上では特別な意味を持たない語を除外
- ・司書教諭の講演と通常授業の講義を区別するため、司書教諭の講演は「話」、通常授業は「講義」に統一

- ・講演内容は高等学校図書室業務についてであったので、「子ども」「児童」など利用者を意味する言葉は「生徒」に統一
- ・「図書室」と「図書館」を「図書館」に統一

設定後、形態素解析により抽出された語数等を以下に示す。

総抽出語数9,428

(うち分析に使用する語数3,473)

異なり語数(抽出された語の種類)1,007

(うち分析に使用する種類788)

文の数 381

学生が感想として記した内容を大まかにつかむために、抽出された頻出語に対し共起ネットワーク図を出力した(図3)。

共起ネットワークとは、出現パターンの似た語を線で結んだネットワーク図である<sup>4)</sup>。各単語は見やすいように配置されているだけなので、その場所の近さは強い共起関係を意味しない。共起関係の強さは、線で結ばれているかどうかで表現される。

この共起ネットワークを「ランダムウォーク」と呼ばれる方法<sup>5,6)</sup>によって比較的強く結びついている語についてグループ分けを行い、出力したのが図3である。出現数の多い語ほど大きい円となり、同じグループの円は同じ明るさで表現されている。また、共起関係が強いほど太い線、グループを越えたつながりの部分は点線で描画されている。さらに、グループを見やすくするため、太い点線による仕切りを加えた。

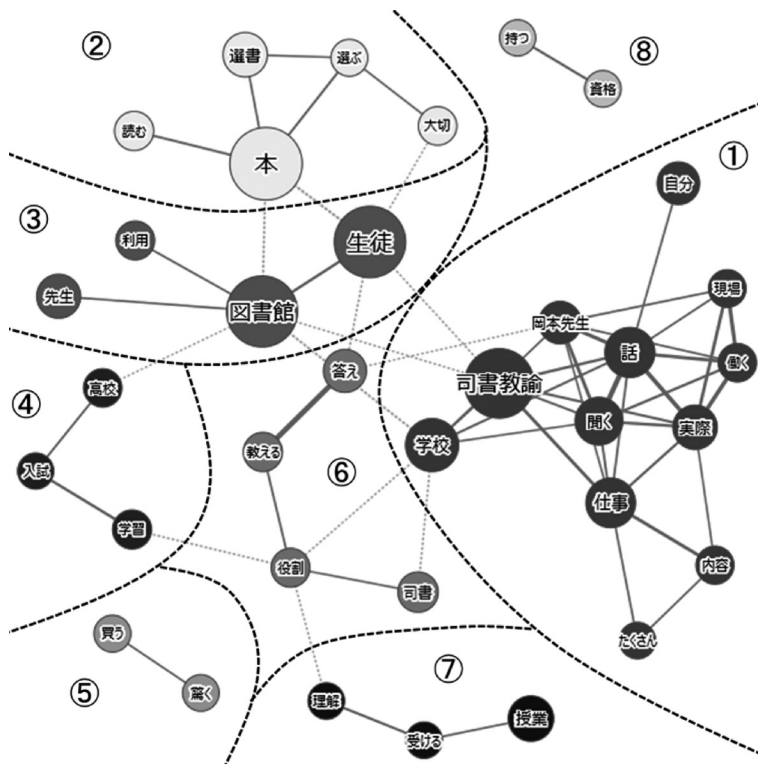


図3 共起ネットワーク

#### 4 分析結果

図3では、語が大きく8つにグループ化されている。

まず①のグループでは、この授業のテーマであり司書教諭を招いた目的でもある、司書教諭の仕事に関する言葉が集まっている。特につながりが強いとされている語は、学校－司書教諭－仕事、岡本先生－話－聞く、実際－話、現場－実際－働く、などである。これらの語を含む文章としては「司書教諭の仕事内容や役割を授業で習ったことより深く知ることができて、とてもためになった。」(学生4)や「今までは司書の仕事は教科書でしか学んでいなかったからあまりよく分かっていなかった。でも今回実際に学校図書館のお仕事をされている司書教諭の先生も話を聞くことができてよかったです。」(学生13)などがあり、司書教諭との出会いにより、授業での学びが自分の「仕事」「役割」として具体的にイメージできるものとなったことがうかがえる。

学生21は、「この授業を受けるまで司書教諭の仕事も詳しくは知らなかったし、司書教諭をとれば余計な仕事が増えるらしいということを聞いて司書教諭を取らなかった友達もいたので司書教諭の授業をとって得するのかなと思っていました。」という、司書教諭課程での学びに対してネガティブな意識を抱いていた。しかし、「でも、司書教諭の勉強は生徒たちに読書の大切さを伝えるときにも効果的だと思うし、大変ではあるけれどマイナスなことはないなと思うことができました。」からは、司書教諭の実際の活動を知ることで、ネガティブな意識がポジティブに変化したことがわかる。

⑧のグループでは、「資格」をとるということに対する思いが表出している。「私は、採用試験

が有利になることがきっかけで、司書教諭免許を取得しようと思いました。」(学生25)、「図書館などで仕事をするんだらうな、と曖昧な考えだけだったので資格をとるにもあまり目標がありませんでした。」(学生20)という2人の思いは、授業後、①の学生21と同様に変化する。

学生20は、「司書教諭として学校から頼ってもらえるような、生徒達にいい環境で本を読んでもらえるような図書館作りができる司書教諭を目指して、今できる勉強から始めていきたい(と)思います。」のように、今回出会った司書教諭をロールモデルとして捉えている。

学生25は、「今日の話を聞いて、生徒にあった本を紹介したり、自分が赴任した学校の図書を整理したりすることも面白そうだと思います。また、新聞や図書を積極的に取り入れた学習も行ってみたいです。」と、司書教諭の役割に興味を示した上で、「担任の仕事と、司書教諭との仕事を両立することは大変だとは思いますが、それだけやりがいもあると思うので、資格がきちんと取得できるように勉強をしていきたいです。」のように、司書教諭の仕事が業務負担にもなり得ることを理解しつつも、その意義を認められるようになっている。

「私は小学校教員を目指しているが、司書教諭としても生徒を支えられるようになりたい。」(学生41)のような、学校の中で別方面から生徒を支援できるという司書教諭の可能性への気づきもあった。

この授業は、選書を主題のひとつにしていたので、グループ③④にはいずれも「本」「選ぶ」「買う」などの選書に関わる語が見られる。そのうち③では、「司書教諭の選書1つで図書館の傾向や特徴、満足度、が変わりかねない」(学生23)のように、学校図書館にとって選書が大切な仕事であることについての記入がある。一方、



表 グループと文例

グループ	内容	ID	文例
①	司書教諭の業務内容を理解する	4	司書教諭の仕事内容や役割を授業で習ったことより深く知ることができて、とてもためになった。
		13	今までは司書の仕事は教科書でしか学んでいなかったからあまりよく分かっていなかった。でも今回実際に学校図書館のお仕事をされている司書教諭の先生も話を聞くことができてよかったです。
		21	この授業を受けるまで司書教諭の仕事も詳しくは知らなかったし、司書教諭をとれば余計な仕事が増えるらしいということを聞いて司書教諭を取らなかった友達もいたので司書教諭の授業をとって得するのかなと思っていました。 でも、司書教諭の勉強は生徒たちに読書の大切さなどを伝えるときにも効果的だと思うし、大変ではあるけれどマイナスなことはないなと思うことができました。
②	学校図書館機能をそこに登場する人間の視点でとらえる	9	わたしは先日の岡本先生の授業を受けて、高校の司書の先生ともっと関わっていたらよかったなと思いました。 たしかに図書館に先生は2人いました。 でもその先生がどのような役割をしているかは知らなかったのもっと早く勉強すればよかったなと思いました。
		32	より多くの生徒に図書館に来て有効活用してもらえるように努力や工夫、環境作りが大切だと思いました。
③	選書の重要性	23	司書教諭の選書1つで図書館の傾向や特徴、満足度、が変わりかねないため、私たちは選書のための学習や情報収集をしていくことが大切だと思った。
		43	学校の方針や進路に合わせた本を選ぶことも大事だけれど、生徒のリクエストに応えることも大切で、ただリクエストされたから買うのではなく意図をもって生徒の意見を尊重することが求められると感じました。
		31	本の選書にはちゃんと意図があることが分かりました。生徒からのリクエストばかりを選書していたら偏ってしまうし、リクエストを一つも聞かないのも駄目だと思うので、選書に基準は難しいと感じました。また、日々本棚を見て、生徒を見て、どういう本に興味があるのかななども知っておく必要があるなと思いました。
④	選書方法についての驚き	5	学習用の本だけでなく、読書をしてもらうための本も選んでいるのには驚きました。
		35	図書委員と買う本を決めたりするというのは今まで聞いたことがなかったので驚きました。しかし、ただ買いたい本を買うのではなくて、その本がどうして必要なかを考えて買うということが、買う本を決める上で重要なことだと学びました。
⑤	学習センターとしての学校図書館	24	文教の図書館が小論文対策の本や面接の本、英語学習の本を置いているのを開き、学習センターとして活躍していることが分かりました。
		40	小論文に関する本を充実させたり、個別指導の場を設けるなど「学習センター」の機能を充実させるという学校に合わせた運営をしていくことが大切だということが分かりました。

グループ	内容	ID	文例
⑥	司書教諭の役割	7	学校図書司書の役割って図書館に居ればいいんでしょ？と思っていた自分がいたわけで、庄先生の授業を思い出しながら、話を聞きました。聞けて良かったです。
		28	わからないといってきた生徒に対して、答えを教えるのではなく、ヒントを与えることが大切とわかり、なるほどと思いました。
		29	司書教諭はどんな立場で生徒と向き合っていくべきか、私が探していた答えを見つけることができました。司書教諭は生徒、生徒が知りたい答えを“教える”のではなく、生徒、生徒が知りたい答えを探すための“サポート”をする立場ということがわかりました。
⑦	授業での学びと実際との接続	45	庄先生の授業を受けてきたので、ある程度のことは大抵理解できていると思っていたのですが、話を受ける前後では自分の理解が未熟であったことを痛感させられました。
⑧	司書教諭の資格を持つということについて	20	司書教諭がどのように現場で働くのかなど今まで見えなかった部分が具体的に分かりました。図書館などで仕事をするんだろうな、と曖昧な考えだけだったので資格をとるにもあまり目標がありませんでした。司書教諭にも国語の資格があることで1人で図書館を任せてもらえたりもできるんだ、と驚きました。司書教諭として学校から頼ってもらえるような、生徒達にいい環境で本を読んでもらえるような図書館作りができる司書教諭を目指して、今できる勉強から始めていきたい思います。
		41	司書教諭は資格をとるのが大変だし、やらなければいけない仕事もたくさんあるけれど、生徒に頼ってもらい、図書館を多くの生徒に利用してもらえれば良いと思った。私は小学校教員を目指しているが、司書教諭としても生徒を支えられるようになりたい。
		25	私は、採用試験が有利になることがきっかけで、司書教諭免許を取得しようと思いました。しかし、今日話を聞いて、生徒にあった本を紹介したり、自分が赴任した学校の図書を整理したりすることも面白そうだと思いました。また、新聞や図書を積極的に取り入れた学習も行ってみたいです。担任の仕事と、司書教諭との仕事を両立することは大変だとは思いますが、それだけやりがいもあると思うので、資格がきちんと取得できるように勉強をしていきたいです。

「学校の方針や進路に合わせた本を選ぶことも大事だけれど、生徒のリクエストに応えることも大切で、ただリクエストされたから買うのではなく意図をもって生徒の意見を尊重することが求められる」（学生43）、「生徒からのリクエストばかりを選書していたら偏ってしまうし、リクエストを一つも聞かないのも駄目だと思うので、選書に（選書の、の誤り）基準は難しいなと感じました。」（学生31）のように、司書教諭の視

点で選書するだけでは十分な蔵書構築が果たせない可能性が考察されている。その上で、「私たちは選書のための学習や情報収集をしていくことが大切だと思った。」（学生23）や「日々本棚を見て、生徒を見て、どういう本に興味があるのかなども知っておく必要があるなと思いました。」（学生31）と自分なりの解決が記されている。

グループ④では、選書という問題に対して司

書教諭が用いている解決方法に対する感想が、「学習用の本だけでなく、読書をしてもらうための本も選んでいるのには驚きました。」(学生5)や「図書委員と買う本を決めたりするというのは今まで聞いたことがなかったので驚きました。」(学生35)等、自分とは違う次元の考え方に会った「驚き」として表現されている。

グループ②には、「図書館」「先生」「生徒」「利用」という語が現れる。学生9は学校図書館にいた人物を回想し、「たしかに(高校の)図書館に先生は2人いました。でもその先生がどのような役割をしているかは知らなかったので、もっと早く勉強すればよかったなと思いました。」と述べている。また、学生32は、「より多くの生徒に図書館に来て有効活用してもらえるように努力や工夫、環境作りが大切だと思いました。」と、学校図書館を学校の中の場として表現している。

グループ⑤では、「高校」「入試」「学習」が用いられ、「文教の図書館が小論文対策の本や面接の本、英語学習の本を置いているのを聞き、学習センターとして活躍していることが分かりました。」(学生24)、「小論文に関する本を充実させたり、個別指導の場を設けるなど「学習センター」の機能を充実させるという学校に合わせた運営をしていくことが大切だということが分かりました。」(学生40)と、学習センターとしての学校図書館を発見している。

グループ⑥にある「答え」と「教える」は、文章としては「わからないといってきた生徒に対して、答えを教えるのではなく、ヒントを与えることが大切とわかり、なるほどと思いました。」(学生28)のように、「答えを教えるのではない」という主旨の文章から取り出された語である。「司書(司書教諭・学校司書の両方を含む)」の「役割」を「学校図書司書の役割って図

書館に居ればいいんでしょ?と思っていた自分がいたわけで」(学生7)と捉えていた学生もいるが、授業後は「司書教諭は生徒、生徒が知りたい答えを“教える”のではなく、生徒、生徒が知りたい答えを探すための“サポート”をする立場ということがわかりました。」(学生29)のように、司書教諭の役割を自分なりに捉えなおしている。これらの認識が、グループ⑦で「庄先生の授業を思い出しながら、話を聞きました。聞けて良かったです。」(学生7)や「庄先生の授業を受けてきたので、ある程度のことは大抵理解できていると思っていたのですが、(今回の)授業を受ける前後では自分の理解が未熟であったことを痛感させられました。」(学生45)のように、「学校図書館メディアの構成」の授業自体へ向き合う姿勢の変化をうながしていることが読み取れる。

## 5 考察

学校図書館という機能が学校教育において果たす役割について授業の前半で学び、中間試験でも十分な理解レベルを示していた学生たちではあるが、知識習得を目的とした講義だけでは、学校図書館あるいは司書教諭の業務・役割を自らのこととして意識することができなかった学生もいる(グループ⑦)。しかし、今回、司書教諭との出会いにより、司書教諭の仕事(グループ①)や役割(グループ⑥)が具体的にイメージできるものへと変化した。また、学校図書館には読書センター以外に学習センターとしての機能があること(グループ⑤)があらためて意識されている。

学校図書館がその機能を果たすためにはまず選書が必要であり(グループ③)、効果的な蔵書構築の方法を考えることも司書教諭の役割であること(グループ④)、また、学校図書館は単な



る施設ではなく、そこを管理し利用する人間が作っていくものであること（グループ②）が、司書教諭の話を通して理解されている。

その結果、受講の目的が「資格取得」から、教育目標を達成するための学習環境としての学校図書館を考える方向へと変化した（グループ⑧）学生もいる。自らの将来像と司書教諭・学校図書館の役割がつながったことで、学習の目的が明確となっている。

本研究は、授業における現職司書教諭との出会いが、司書教諭課程の1年生に具体的な司書教諭の役割イメージを与えること、また学校図書館が学校教育の中で機能するために、よい蔵書構築を目指す司書教諭の選書方針が重要であることなどの理解への導きに効果的であることを明らかにした。司書教諭との出会いによって変化した学生の意識は、よりよい学校図書館を作るために必要な業務知識の習得を、目標に到達するための一つのステップとして再認識している。司書教諭の役割をポジティブにとらえることは、今後、司書教諭課程での学習意欲の向上へとつながっていくと期待できる。

## 6 課題

今回分析した学生の感想は、司書教諭の話を聞いた直後に書かれたものである。したがって、「仕事が忙しい中、時間を割いてきてくれた」という司書教諭への感謝が、前向きな感想として表現されている場合があるかもしれない。また、司書教諭の話や授業で登場した主題・言葉が感想に頻出するのは当然であり、テキスト分析だ

けでは個々の学生の心の動きまでは読みとれない。司書教諭との出会いによって受けた影響を細かく知るためには、一つ一つの文脈やそれを書いた学生の気持ちを追っていかなければならない。

今後は、司書教諭との出会いが学習意欲の向上にどれほどの効果を与えるのかを、インタビューなどの方法で明らかにしていくことが課題である。

## 謝辞

本研究では、広島文教女子大学高大連携授業の一環として、広島文教女子大学附属高校の岡本恵里香司書教諭にご協力いただいた。また、学生の感想は、授業履修生の同意を得て分析・引用したものである。関係の皆様には感謝申し上げます。

## 参考文献

- 1) 文部科学省「学校図書館法の一部を改正する法律等の施行について（通知）」, 1997
- 2) 文部科学省「学校図書館司書教諭講習規定の一部を改正する省令について（通知）」, 1998
- 3) 文部科学省「学校図書館法の一部を改正する法律の公布について（通知）」, 2014
- 4) 樋口耕一, 2001, 『KH Coder』 <http://khc.sourceforge.net/>
- 5) 阪口祐介・樋口耕一, 2015, 「震災後の高校生を脱原発へと向かわせるもの—自由回答データの計量テキスト分析から—」友枝敏雄編『リスク社会を生きた若者たち—高校生の意識調査から—』大阪大学出版会, 186-203
- 6) Pons, P. and Latapy, M., 2005, "Computing Communities in Large Networks Using Random Walks," ArXiv Physics E-prints, <http://arxiv.org/abs/physics/0512106>
- 7) 増田直紀, 2008, 「複雑ネットワークの研究動向について（〈特集〉複雑ネットワークの世界—ネットワーク研究の新展開—）」『オペレーションズ・リサーチ：経営の科学』53(9)：420-438